

教員名	永原 恵三 (NAGAHARA Keizo)
所 属	文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現講座
学 位	博士 (文学) (1999 大阪大学)
職 名	教授
URL / E-mail	nagahara@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

合唱 / キリスト教音楽 / 観光 (ツーリズム) / 柴田南雄 / 声

◆主要業績

総数 (7) 件

- ・2006年8月27日、演奏会企画、出演、論考執筆。
柴田南雄没後10周年記念コンサート『柴田南雄の宇宙一生の諸相ー』実行委員(企画、運営)および出演。
プログラムノート「シアターピースの思想」、柴田南雄没後10周年記念コンサート
『柴田南雄の宇宙一生の諸相』プログラム p.5、東京:日生劇場
- ・2006年11月5日、国際シンポジウムパネリスト。「国際文化フォーラム」
『音楽と文化ー祈りににおける音楽ー』パネリスト、高野山金剛峯寺講堂、主催:文化庁
- ・2006年12月25日、新聞記事、「国際文化フォーラム」『音楽と文化ー祈りににおける音楽ー』、日本経済新聞
- ・2007年1月7日、NHK出演、「イベントホール」
(「国際文化フォーラム」『音楽と文化ー祈りににおける音楽ー』)、NHKBS2放映
- ・2006年11月18日、記念論文集編集、論文、『お茶の水音楽論集』特別号、徳丸吉彦先生古稀記念論文集、
編集主任、および執筆「対話:音楽学の現在と徳丸吉彦先生」(近藤譲、永原恵三)、東京:お茶の水音楽研究会

◆研究内容

1) 音楽学の分野①合唱の存在論的研究と柴田南雄の研究。柴田南雄没後10周年で、記念コンサートを企画し出演した。②観光と音楽についての研究。国内外の研究を踏まえたツーリストアートについての研究。③カトリックの聖歌に関する研究。教会の音楽監督としてオルガニストと聖歌隊指導を担当。第二ヴァチカン公会議後の聖歌およびヨーロッパ中世・ルネサンスの聖歌についても近年の研究動向を調査。11月に行なわれて文化庁主催の「国際文化フォーラム」ではキリスト教音楽研究を代表してパネリストを務めた。

2) 演奏の分野では、3つの立場で研究と実践を行なう。①合唱指揮者。男声合唱団を指導し、発声指導法や音楽作りを研究。発声指導に大きな成果あり。②声楽アンサンブルを主宰。ルネサンス期のポリフォニーと現代の典礼聖歌を中心に演奏を研究。③テノール独唱者。ドイツリートおよびバロック音楽における演奏を研究。発声法と演奏法を大阪音楽大学名誉教授の永井和子氏のもとで研鑽している。

◆教育内容

学部: 1, 2年生向けの音楽文化概論Iおよび音楽学概論IIで、音楽学の基本的概念、考え方、方法などを提示するとともに、西洋音楽史の中世からルネサンスまでの時代を英語の文献で概観する。3年生向けの比較音楽文化論では近年の音楽学文献(英語)を演習形式で輪読する。本年はBonnie Wade "Thinking Musically" (2004)。4年生向けの比較音楽文化論演習では卒業論文作成のために毎回数人ずつ発表し、論文の内容を検討する。3年生向けの指揮法はグループレッスンだが、クラス全員が1回ずつ前で指揮をし、それにコメントをする。斎藤秀雄の方法を用いる。

大学院: (博士前期)音楽研究方法論(演習)は近藤教授と合同で修士論文に向けて全員のゼミ。音楽表象文化特論(演習)は音楽学専攻の学生を中心としたゼミ。音楽学の近年の論文等を参考にして、各自の研究を発表。博士後期の学生も聴講するので20人強の受講生がいる。(博士後期)後期の学生のみでのゼミでは近年の英語論文を輪読。他に個人指導多数。

◆Research Pursuits

Music performance:1)choral conducting. 2)Dirigent of vocal ensemble singing especially Catholic church music. Church organist. 3)Tenor solo singer singing especially German lieder and baroque music.

◆Educational Pursuits

Undergraduate course: musicology; lectures of key concepts and comprehensive knowledge of this field, and Western music history (medieval through renaissance period). conducting method.
Graduate course: musicology (advanced and applied including ethnomusicology).

◆将来の研究計画・研究の展望

- 1) 合唱のトポロジーについてと、柴田南雄の合唱作品の総括を研究成果として単行本で刊行。
- 2) 観光学の古典とされる D.MacCannel"The Tourist"の解説本を刊行（共著）。
- 3) Gustav Felleler『カトリック音楽史』翻訳出版。
- 4) 観光芸術（ツーリストアート）研究。現代社会における美学の新しい地平を模索したい。
- 5) テノール独唱者として、ドイツリート、フランス歌曲、および J.S.Bach の宗教曲の演奏研究。
- 6) 世界の合唱音楽についての民族音楽学的研究。

◆受験生等へのメッセージ

私は音楽学者と演奏家との二足のわらじを履いています。西洋音楽ではバロック以前の音楽に重要性を見だし、とくに合唱に関心を持っています。演奏家としては西洋音楽を専門としていますが、音楽学者としては、西洋だけでなく諸民族の音楽や国内の民謡および民俗芸能にも関心を持ち、それらに応じた研究の仕方や研究成果を学び、またそれを学生の皆さんと共有しています。

お茶の水女子大学の音楽学は日本でも有数の研究拠点で、学会でも高く評価されています。大学院のゼミは実にさまざまな音楽研究者のタマゴたちが集まり、熱い議論をして切磋琢磨しています。

音楽について、しっかりと考えて、研究し演奏していく姿勢をもっている人に、来ていただきたいと思っています。音楽は感性だけで生まれるものではなく、人間の知的活動の産物であることを、忘れてはならないと思います。